

令和２年度 緑丘小校内研について

I 育成を目指す資質・能力について

- 新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を明確化した。

教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理する（学習指導要領 総説 より）

- その資質・能力の育成に向け、緑丘小では、学校教育目標と児童の実態を踏まえ、以下の三つの資質・能力を重点的に育成することになっている。

学校教育目標	育成を目指す資質・能力	学習指導要領 三つの柱との関連	緑の誓いとの関連	本校の課題
自ら学ぶ	主体性	ア 生きて働く「知識・技能」の習得	進んで勉強をします	・ 目的をとらえる力 ・ 問題を解決しようとする意欲
思いやり のある	自他の敬愛	イ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	さわやかにあいさつをします みんなと仲良くします	・ 相手意識 伝える相手の反応を見て説明をすることができず、ノートを読んでしまう。
たくましい	自律・耐性	ウ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	きまりを守ります 心をこめて掃除をします	・ 集中力 難しい問題をあきらめる。したいことをやめられない。

◆令和元年度（研究１年目）の成果と課題

【成果】 ・ 職員の「授業改善」の意識が高まった。

・ 職員が、「子どもは書くことができる」という実感を得た。

・ 子どもの「書く力（式を説明する力や図示する力等）」の高まりがみられた。

・ 子どもの「書いて表現することに対する抵抗感」が減り、意欲が高まった。

【課題】 ・ 「書く活動」が「主体的に学びあう」ことに「どうつながるのか」という部分について更なる研究、実践が必要。

・ 学力をCRTテストで測ることになっているが、それで測れない学力もあるため、どのように評価するか共通理解が必要。

・ チャレンジテストの結果を分析し、次へつなげるサイクルがうまく働かなかった。チャレンジテストに関わるスキルタイムの取り組み方について改善が必要。

Ⅱ 研究について

研究主題

主体的に学び合う児童の育成

～ねらいに即した「書く活動」を重視する算数科の学習を通して～

研究仮説 算数科において、①ねらいに即した「書く活動」を重視する授業を仕組みば
②主体的に学び合う児童が育ち、③学力が向上するであろう。

①ねらいに即した 「書く活動」とは

「本時のねらい」を達成するための書く活動。

②主体的に学び合う 児童とは

自分なりの考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、課題解決に向けて考えを深め合う児童。

③学力が向上するとは

「学力の3要素」である「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」が向上すること。

主題設定の理由

◆ 国・県・市の教育方針から

- ・2020年度から全面実施される新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要視されている。
- ・長崎県から出された「新学力向上のための三つの提案」及び「五島市版学力向上のための三つの提案」において、ねらいに即した「書く活動」を重視している。

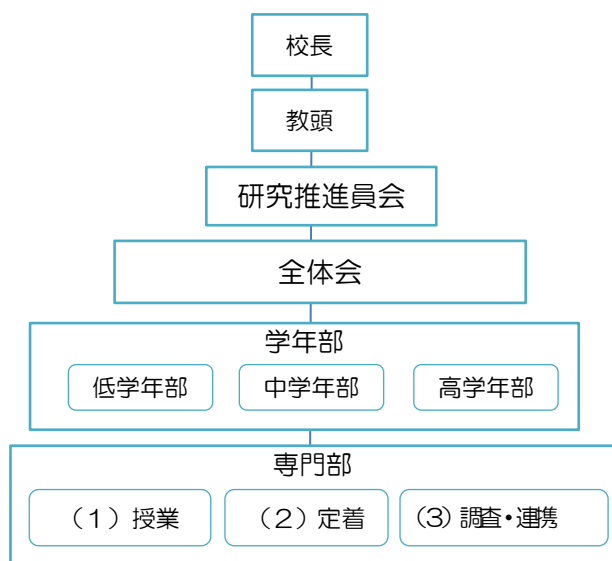
◆ 児童の実態から

- ・学力調査の結果から「書く力」は、緑丘小の重点課題のひとつである。
(記述に関する問題の正答率：全国学力 45.6%、県学力 51%)

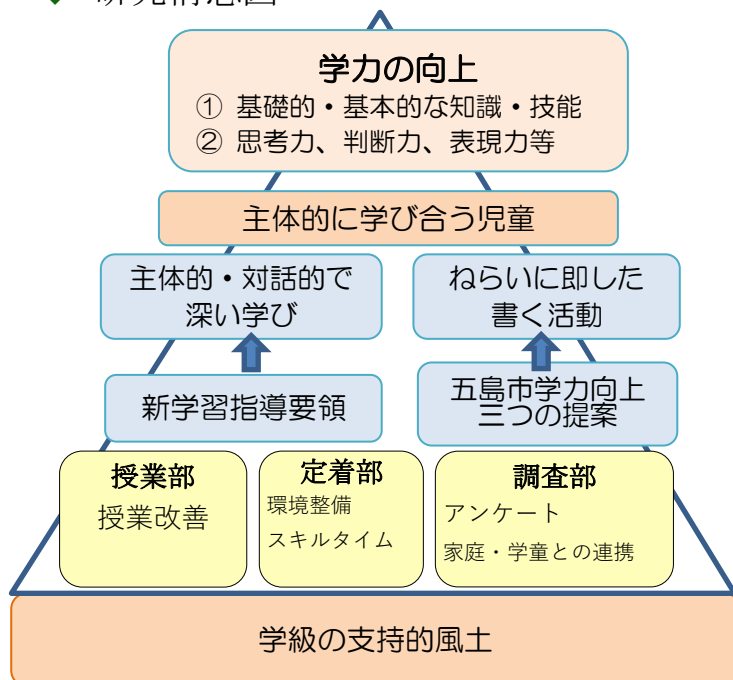
◆ 教師の願いから

- ・進んで学習に取り組ませたい。
- ・書くことで、自分の考えが整理されていく経験や、相手により伝えやすくなったという経験を積ませたい。

◆ 研究体制



◆ 研究構想図



◆ 専門部の取組

授業部

- (1) 「書く活動」におけるめざす児童の姿を具体化し、共通理解を図る。
- (2) 主体的に学び合う児童の育成のため、ねらいに即した「書く活動」を重視した算数科の授業改善に取り組む。

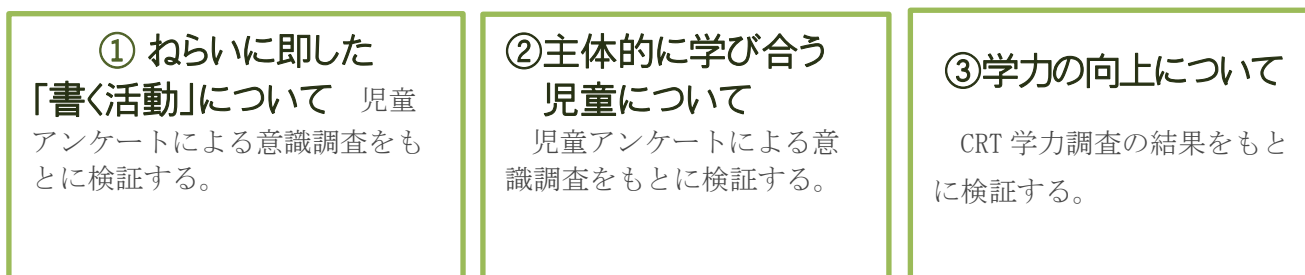
定着部

- (1) 環境整備 どの子も迷いなく取り組める環境を整備する（見本を作成し、各学級に配付）
- (2) スキルタイム 基礎基本の定着を図る。

調査・連携部

- (1) アンケート実施 「書く活動」や主体的に学び合う児童の変容を捉え、次に生かすために児童アンケートを実施する。
- (2) 家庭や学童との連携 学校・家庭・学童が、家庭学習の取組を共有する。

◆ 検証について



Ⅲ 校内研年間計画について

○ 研究発表会を実施する（１１月６日予定）

回	月	日	内 容	
①	4	16	模擬授業（野口教諭）【目的】研究１年目の取組について、共通理解を図る。そろえて取り組むことを共有する。	今年度の取組を共有し実践する
②		30	全体会 今年度の取組について	
③	5	7	全体会 研究組織等を決定し、本年度の取組を確認する	
④		14	専門部会	
⑤	6	11	全体会 指導案検討会	
⑥		25	研究授業・授業研究会 *提案授業（５年 高洲教諭）	
⑦	7	9	全体会 研究発表会へ向けて	
⑧	8		現職教育	
⑨			全体会 指導案検討会	
⑩			全体会 指導案検討会	
⑪	9	3	全体会・学年部会 新学期にあたり、取組の共通理解を図る。	実践を整える（研究発表会へ向けて）
⑫		17	研究授業（低学年）・授業研究会 *研究の成果・課題をみる→改善策の共有	
⑬		24	研究授業（中学年）・授業研究会 *研究の成果・課題をみる →前回の授業を受け改善した点について協議→改善策の共有・取組の確認	
⑭	10	1	全体会 研究発表会指導案検討会①	
⑮		8	全体会 研究発表会指導案検討会②	
⑯		15	全体会・部会 研究発表会へ向けて	
⑰		22	全体会・部会 研究発表会へ向けて	
⑱	11	5	全体会・部会 研究発表会へ向けて	
⑲		6	研究発表会	
⑳		20		実践をまとめ、来年度へつなぐ
㉑		26	全体会 研究発表会を受けて、改善点などを共通理解する。	
㉒	12	3		
㉓		10	全体会 指導案検討会	
㉔	1	14	研究授業（ ）・授業研究会	
㉕		21	全体会 今年度の反省と来年度の取り組みの確認	
㉖		28		
㉗	2	25		